# Study Abroad Report in France

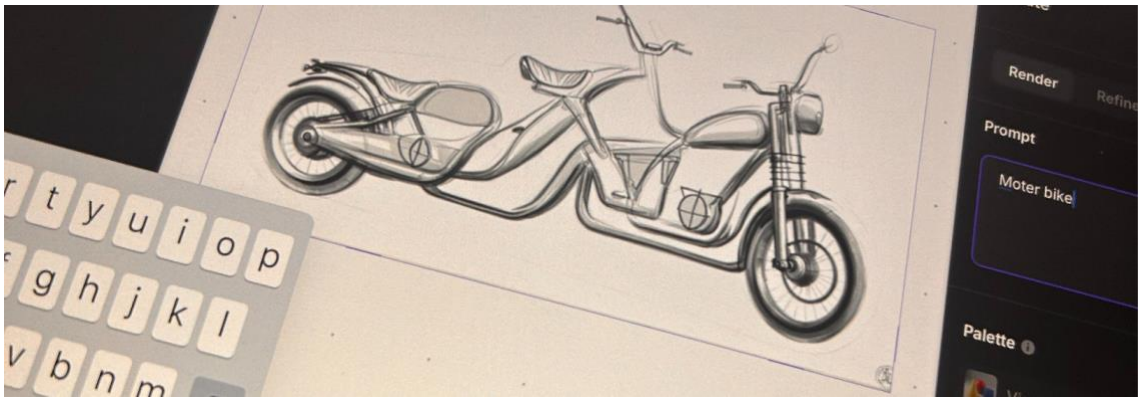
## Digital Visualization & Intro to AI　という授業から考えたこと

今回は、Digital Visualization & Intro to AI という授業について取り上げます。この授業ではタブレットやパソコンなどのデジタル機器を使ったスケッチや、AI ソフトを活用したスケッチ、さらに手描きによるレンダリングの方法について学びます。AI は作業効率を飛躍的に高めることができ、その点でサステナブルな社会づくりにも役立つ可能性があることも知りました。AI 本来の特性の中に、こうしたサステナビリティの視点が見られることは新鮮な発見でした。

授業内のディスカッションでは、「これから AI とどう付き合っていくべきか」「AI にできることと人間にしかできないことは何か」について意見を出し合いました。先生からは「AI は短時間で精度の高いスケッチを作れるけれど、手で描くことにはどんな意味があると思う？」という問いかけがあり、それに対して「手で描くことで、対象物の構造を深く理解できる」という意見が出たのが印象的でした。

ここからは私自身の考えになります。クラスメイトの多くは AI に対してやや否定的な意見を持っていたように感じましたが、私は AI と共存しない未来はもはや想像できないと考えています。特に AI は、人間だけでは到達できないほどの高い精度と効率性をもたらすこ

とができ、これからの社会では AI の強みを積極的に活かしていくべきだと思います。ただし同時に AI が進化をすればするほど、活用すればするほど、「人間の人間力」が問われると思うのです。AI には社会や人間の在り方そのものを大きく変える力がありますが、どれだけ技術が進んでも、「自分で考えること」「手を動かすこと」「物事の本質を問い続けること」といった営みこそが、人間であることの本質だと考えます。AI の進化は、むしろ「人間とは何か」を問い直す良い機会でもあり、私たちが自分自身の意志で世界に向き合うことの大切さが、これからますます重要になるのだと考えるきっかけとなりました。




上の写真は授業の中で初めて AI 生成したバイクの画像です。下絵と「バイク」という指定がうまく反応されず、ヘンテコな形になってしまいました。指示を適切にするのもヒトの力量だなと思わせられました。

## イースター祭と旅行

4 月 12 日から 20 日は中間休みで授業がなかったため、近くの国々を巡る旅行に出かけました。この期間はちょうどイースター（復活祭）の祝日と重なっています。イースターはイエス・キリストの復活を祝うキリスト教の大切な行事で、欧米ではとても一般的な春のイベントです。春になるとヨーロッパ各地の街角にはカラフルな卵やウサギの飾りがあふれ、明るく華やかな雰囲気に包まれます。この時期には家族や友人が集まり、卵探しゲーム（エッグハント）を楽しんだり、みんなでにぎやかに過ごすのが伝統だと教えてもらいました。イースターエッグやイースターバニーは「命」や「新しいはじまり」の象徴とされていて、色とりどりの飾り付けを見るだけでも春らしい気持ちになります。実際に街を歩いてみると、あちこちで色鮮やかな卵のデコレーションが見られ、とても楽しい雰囲気でした。

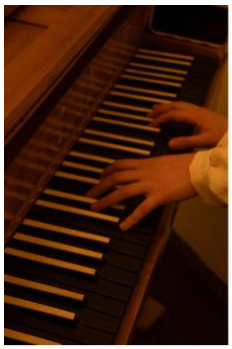
今回は、姉が日本からヨーロッパまで遊びに来てくれることになり、まずフランスのパリで合流しました。姉は大学院でピアノを専攻しているため、音楽の都として知られるオー

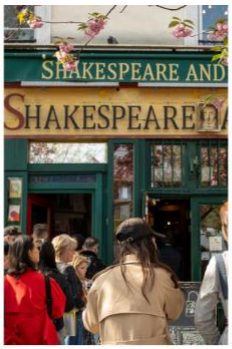
ストリアのウィーンや、モーツァルトやシュトラウスといった有名な音楽家ゆかりの地であるドイツのミュンヘンも一緒に訪れました。

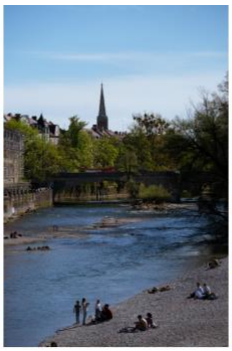
短期間で複数の国を巡りましたが、日本から見れば「ヨーロッパ」とひとくくりにしがちなこの地域も、国ごとに街の雰囲気や人々の佇まい、振る舞い、顔立ちや放つオーラまでまったく異なり、とても不思議な気持ちになりました。それぞれの国民性がどのように形づくられてきたのか、思いを馳せる良い機会にもなりました。

また、駅や広場に設置されているストリートピアノを見つけるたびに演奏したのですが、周りの人たちの反応が日本とは大きく違うことにも驚きました。日本では静かににこやかに見守る人が多い印象ですが、ヨーロッパではピアノ経験の有無に関わらず、演奏に加わったり、一緒に歌ったり踊ったりと、実際に行動して楽しんでくれる人が多く、その自由さがとても印象的でした。現地の人々と音楽を通して交流し、一緒に楽しめたこともカルチャーショックであり、旅の大きな思い出となりました。

見慣れない駅の表示や公共交通機関の利用方法、レストランでの注文や受付の人の対応など、あらゆる場面でそれぞれの国の特色が垣間見えて、本当に面白かったです。今回訪れた国々はシェンゲン圏内（EU 加盟国）だったため、国境もパスポートなしで通過でき、日本国内で県外に旅行するような感覚に近かったことも興味深かったです。







# Biot のお祭り

Biot（ビオ）は、私の住んでいる場所から電車とバスでおよそ 30 分ほどの距離にある、歴史と芸術の薫る趣深い村です。今回クラスの友達が誘ってくれて、Biot で開催されていたお祭りに出かけました。

このお祭りは中世の伝統を再現したユニークなもので、会場全体がまるで中世の世界にタイムスリップしたかのような雰囲気に包まれていました。中世の衣装に身を包んだ人々が村中を練り歩き、太鼓や笛の音が鳴り響く中、パレードが行進する様子など見ることができました。

特に印象に残ったのは、広場で行われた騎士たちによるショーでした。甲冑を身にまとった騎士が、馬にまたがって登場すると、観客から大きな歓声が上がります。槍試合（ジョスト）の再現では、騎士同士が互いに槍を構えて駆け抜け、盾に槍が当たって木片が飛び散る瞬間には思わず息を呑みました。また、花火を使った舞の場面では、文字通り火花が散るような迫力のある立ち回りに、周囲の観客も夢中になって声援を送っていました。

こうしたショーはエンターテインメントにとどまらず、中世の戦いや文化を五感で感じさせてくれる貴重な体験でした。騎士たちの動きや演出からは、当時の戦いの様子や精神性を垣間見ることができ、歴史に興味のある私にとってはまさに夢のような時間でした。

通りには所狭しと屋台が並び、地元の名物であるチーズや肉料理が販売されていたり、中世の衣装を実際に着られるコーナーがあったりと、見るだけでも楽しい空間が広がっていました。中には、ギロチンの仕掛けに挟まって写真を撮る子供の姿もあり、来場者を楽しませる工夫が随所に見られました。

私はもともと歴史に興味があり、特にフランスの歴史には関心があったため、実際にその雰囲気を肌で感じることができ、大興奮でした。単なる観光イベントというよりも、文化や歴史の奥行きを感じられる貴重な体験だったと思います。